

## ブドウ赤色系品種「クイーンニーナ」の着色について

### 果樹試験場

赤色や紫黒色に着色するブドウは、気象や栽培管理等の条件によって着色状況に差がみられます。一般に、気象要因としては気温と日照が着色に大きな影響を及ぼすことが知られています。また、栽培管理では、果房重が大きく、糖度の上昇が不十分な場合に着色不良となりやすいことが知られています。果樹試験場では、大粒で食味のよい赤色ブドウ「クイーンニーナ」について、気象条件や果房管理方法が着色に及ぼす影響を調査しています。

平成 20～25 年の気象条件と「クイーンニーナ」の着色との関係を検討したところ、満開後 65～74 日（8 月下旬～9 月上旬頃）の全天日射量、日照時間が多い年ほど着色の進行が早い傾向がみられました（図 1）。このことから、「クイーンニーナ」では特に着色期の日照条件が着色に大きな影響を及ぼすことがわかります。

また、果房の大きさと着色との関係を調査したところ、着粒数を 30 粒程度として果房重 500g 程度となった果房では着色の進行が早く、着色の揃いもよい傾向でした（写真 1）。これに対して、着粒数が 35～40 粒と多く、果房重が 570g 以上となった果房では、着色不良果粒の混入と裂果の発生が多くみられました。これらのことから、「クイーンニーナ」は着粒数 30 粒程度で果房重 500g 程度とすると安定した着色が得られます。

このほか、果樹試験場では、日照不足のような着色条件が悪い年でも着色の良い果実が収穫できるよう、果実袋の利用方法などについて技術開発を行なっています。

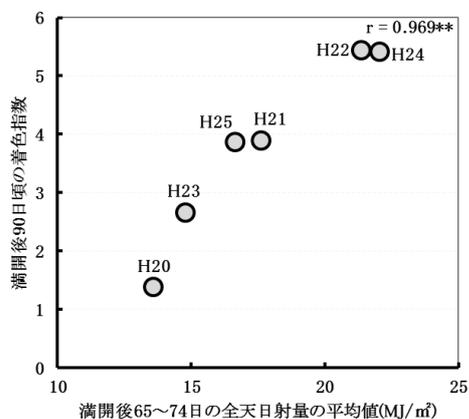


図 1 着色期の日射量と「クイーンニーナ」の果皮色との関係（平成 20～25 年）

着色指数は農水省果樹試基準果実カラーチャートブドウ赤・紫・黒系の指数。0：緑色、6：赤色。



写真 1 果房重の異なる「クイーンニーナ」の着色状況（平成 27 年）

左：果房重 500g 程度（着色が良好）  
右：果房重 600g 程度（大房で着色がやや淡い）

担当者	峯村 万貴	電話番号	0 2 6 - 2 4 6 - 2 4 1 1
-----	-------	------	-------------------------

[試験場だより・知って納得コーナーに戻る](#)

[果樹試験場ホームページへ](#)